

# かぐや第三幼稚園 色彩環境計画

加藤 松雄



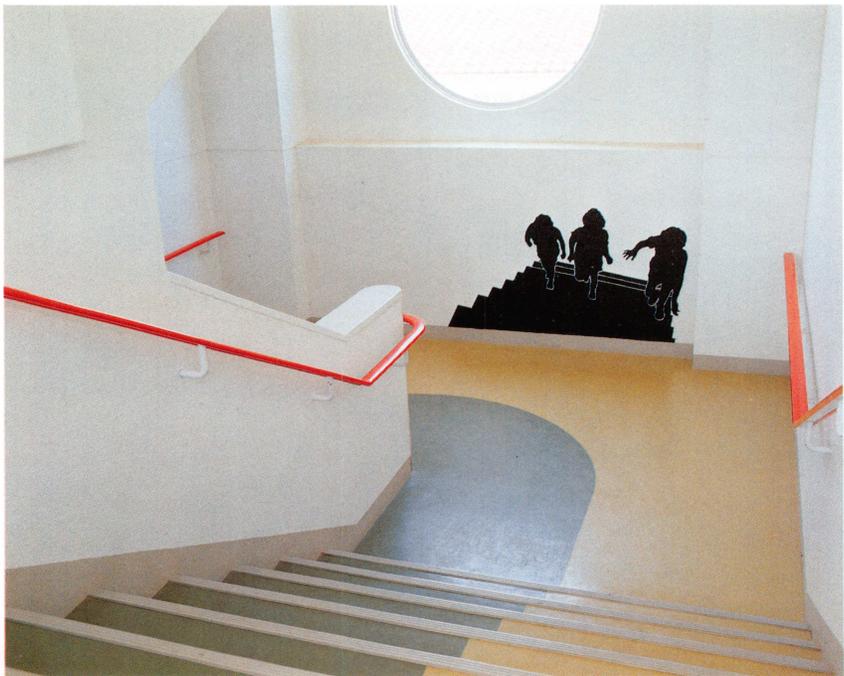
園舎全景



ブロック塀（運動場側）



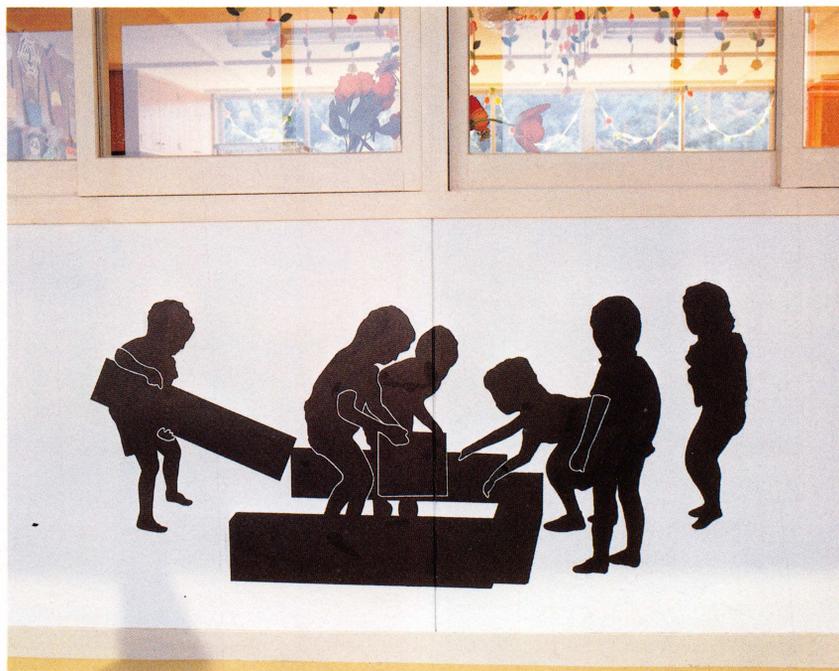
玄関



階段室



2階廊下（南北棟）



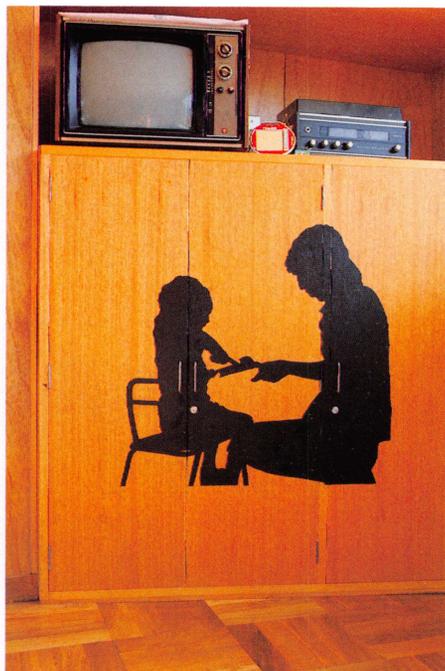
2階廊下壁（保育室側）



2階廊下壁（保育室側）



2階便所



1階保育室ロッカー扉



保育室園児用ロッカー



1階廊下壁



1階廊下壁（保育室側）



レリーフ作品（階段室）

## かぐや第三幼稚園 色彩環境計画

名称／学校法人 篠田学園 かぐや第三幼稚園  
 所在地／岐阜市粟野月野1416番地ノ1  
 園長／篠田 靖  
 建築設計／岬建築事務所 施工／土屋組  
 敷地面積／5,097㎡  
 建築床面積／1階465,230㎡ 2階667,302㎡  
 建築形式／鉄筋コンクリート造り2階建。吹き付けタイル仕上げ。保育室13、便所2、階段室2、廊下、倉庫、教材庫、手足洗い、他。

岐阜市街地からは北方に位置し、東西は丘陵台地に囲まれ、自然景観に恵まれた環境である。当幼稚園は創立昭和39年であるが、これまでの園舎を倒壊し、昭和55年10月、運動場拡張及び園舎増改築全三期に渡る工事計画のうち、第一期工事が完了した。特に建築面での特徴は、30メートルの棟を東西に、46メートルの棟を南北にもつが、その廊下を東西においては棟の南面に、南北においては棟の東面に設けていることである。廊下幅を二階においては2.7メートルと広げ、廊下部屋根が一部ガラス張り、熱線反射フィルムが使用されて明るく、通常の廊下としての機能以上の場を創りだす空間になっている。又、階段室は、ドーム屋根を設け、直線からなる建築形態に曲面からなるアクセントとしての個性を与えていることなどである。

### 要請を受けた色彩計画の内容

- 1、保育室内 ①出入口の引き戸 ②ロッカー ③天井 その他
- 2、便所内 ①壁 ②天井 ③ブース隔て板 ④たたき
- 3、廊下 ①床面 ②保育室出入口の引き戸
- 4、建築物内各壁、及び 野外ブロック塀の装飾

保育室内／壁面は、合板の生地をそのまま用いた淡いブラウン、床は、フローリング・ブロック使用で明るいブラウン。したがってブラウン系が基調色であり、これを配色計画の基礎とした。かっこ内は修正マンセル値。

「出入口の引き戸」ヴィヴット・イエロー (5Y 8/13.5) ヴィヴット・レッド (4R 4.5/14) ヴィヴット・ブルー (3PB 3.5/13) ヴィヴット・グリーン (4G 5.5/10.5) の4色をユニットとした。1保育室の前方と後方の引き戸を同一色とし、保育室側と廊下側も共に同一色とした。引き戸は、保育室と廊下面を結ぶ接点であり、園児は自らの保育室を確認するためのカラー・サインでもある。原色に近く、純度の高い色彩を用いることによって、建物全体のカラー・アクセントとした。

「ロッカー」1保育室に30個が設けられており、オープン形式。背面板は3面をユニット・カラーとし、ライト・イエロー (5.5Y 9/6) ブライト・グリニッシュ・イエロー (10Y 8.5/9) プリニッシュ・ホワイト (3PB 9/1) の順で配色した。ロッカー側面、上面、下面は、イエロウイッシュ・ホワイト(2.5Y 9/0.5) 1色。デコラ使用。

「天井」パール・レディッシュ・イエロー (2.5Y 8.5/3) 1色。塗装による。その他、「掲示板」は、リエフ (5GY 6/4) クロス使用。ロッカー、天井、掲示板は各室共通である。

便所内/便所全体は、グリーン系を基調色として統一させている。保育室が木目の生地を用いたライト・ブラウン系であるところから、対応する観点ですすめた。

「壁」デイル・グリニッシュ・スカイ (10B 8/3) 角型タイル使用。

「天井」ストロング・イエローグリーン (5GY 6/10) 吹き付け塗装仕上げ。

「ブース隔て板」ストロング・グリーン (5G 6/8) 刷毛塗り仕上げ。

「たたき」ペイル・グリーン (5G 8/3) コイン型タイル使用。

廊下/1階は、外窓壁はなくオープンである。床は段差を設け、廊下と犬走り廊下に分かれる。2階は、幅2.7メートルと広く、センターから左右に2色をふり分けて使用。廊下側の保育室出入口引き戸は、前述のごとく表裏共に同色である。

「床面」1階廊下は、ダール・イエロー (5.5Y 7/5) で長尺シート使用。犬走り廊下は、ストロング・イエロウイッシュ・グリーン (10GY 4.5/7) で刷毛塗り仕上げ。2階廊下も上記2色で長尺シートを使用。保育室出入口引き戸の色彩との関係からダール・イエローを保育室側へ、他を外窓側へ配色。

建築物内各壁、及び野外ブロック塀の装飾/園児シルエット 園児の園内での日常をシルエット化し、建築物内の各壁にそれを描く、或いは板を切りぬいて貼りつける。建築物内でのそれはブラック一色で表現し、野外、ブロック塀では、ホワイト一色で表現。

シルエット数は、廊下壁に16態、保育室壁に5態、玄関下駄箱裏面に1態(これのみ切りぬき板によるレリーフ) 便所、ブース扉に1態、建築物内に合計23態、野外、ブロック塀、運動場側に3態をふりあてた。アクリルカラー使用。

壁面環境に描かれた園児、例えば、白壁に黒一色で描かれたシルエットは、視覚的に強い刺激を与えよう。園児はそこに自らを見だし、仲間を見だす。日常を通して、その対象とのかかわりは、次第にそれが、「かたち」であり、そのエネルギーは、空間へ転ずるものであり、環境を形成していくものだという意識への芽生えが誘発されることを望む。

抽象形態によるレリーフ作品 建築物内の壁面装飾としての園児シルエット、それに対応する内容として、有彩色、オーガニックな抽象的形態、半立体とコントラストをなす意味で、玄関壁と階段室壁にとりつける。厚手合板の切りぬき、砂利、ロッカー吹き付け、アクリルカラー、ステンレス帯で制作した作品。1972年作。(1,700<sup>mm</sup>×1,230<sup>mm</sup>×40<sup>mm</sup>)